

科目名（英文表記）	ビジネスプランニングⅡ（Business Planning Ⅱ）		
科目区分	実践科目	単位数	2 単位
担当教員名	藤原健祐・齋藤一朗・内田純一・泉 貴嗣・（非）井馬智行・（非）太田 稔・（非）奥田和重	ナンバリング	MBA_P_BP 6421
研究室番号	（藤原） 4 1 8 （齋藤） 3 4 0 （内田） 5 1 3	研究室電話番号	（藤原） 2 7 - 5 4 9 2 （齋藤） 2 7 - 5 3 4 5 （内田） 2 7 - 5 3 8 9
Eメール・アドレス	（藤原） k-fujiwara@res.otaru-uc.ac.jp （齋藤） ichiro@res.otaru-uc.ac.jp （内田） uchida@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： 本授業の目的は「ビジネスプランニングⅠ」で習得したビジネスプランニングの知識・スキルをさらに高めて、より高度なビジネスプラン作成能力を身につけることにあります。 「ビジネスプランニングⅡ」は、モジュール1～2におけるグループ単位（1グループ3名が目安）で立案する第1課題（上場企業（北海道に所縁のある企業が望ましい）における新規事業計画）と、モジュール3～4で各自が個人レベルで実施する第2課題（自由課題）から構成されます。本授業では、顧客の要求（ニーズ）把握や事業の成立に必要な市場規模の推計、競合や業界に関わる認識、顧客に提供する価値とそれを具現化した商品・サービスの開発、商品・サービスの特性やチャネル特性などを勘案したチャネル選択やプロモーション、経営資源における強み等々を活かせるようなバリューチェーンやオペレーションシステムを構築する能力の習得・向上を主たる狙いとしします。 なお、本授業で立案した事業内容をそのままビジネスワークショップ（後期）において取り組む課題として流用することは禁止されているので注意してください。			
到達目標： ① 在学中もしくは修了後に、新規事業あるいは創業を志す者に必要なビジネスプランニングの技法およびビジネスプランの作成能力を身につけていること。 ② 経営者や出資者に対して、ビジネスプランを効果的に提示する際に必要な表現力とプレゼンテーション力を身につけていること。			
使用教材： テキスト：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング 改訂版』同文館出版, 2012年 参考文献：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング手法』同文館出版, 2010年（現在品切れにつきサテライトの書架を利用のこと。） 上記以外の参考文献ならびに授業時に使用する各種資料等については、随時、manaba 上にアップロードします。			

成績評価の方法：

成績評価の評点配分については、以下の通りです。

出席点	: 0%
ディスカッサント講評（第1, 第3モジュール）	: 10%
プレゼンテーション評価（第2, 第4モジュール）	: 10%
モジュール1の事後成果物（グループ課題）	: 15%
モジュール2後のグループ課題最終成果物	: 25%
モジュール3の事後成果物（個人課題）	: 15%
モジュール4後の個人課題最終成果物	: 25%

なお、評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出てください。

履修上の注意事項：

①授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して行われますが、変更の必要が生じた場合や別途の指示、事前・事後課題の詳細等については、manabaシステム上に掲載します。

②成績評価上、5時限を超えて欠席すると自動的に不可となるので注意すること。

③モジュール4の授業は、試験相当時間（1時限）分を併合し、10：30～17：40の時間帯で行います。

④本授業では、履修者相互による啓発を目的として、「ディスカッサント（Discussant: 討論者）」制度を導入します。各グループに対しては、予め複数のディスカッサント（同一グループ以外の履修者）を、個人に対しては予め2名のディスカッサントを指名し、グループあるいは個人のプレゼンテーションおよび作成資料に対するコメントを義務付けます。なお、提出された「建設的な意見」については、ディスカッサント講評として個人別に評価対象とします。

⑤本授業のグループワーク活動の一環として、学外の方（例えば、OBSのOBやOG等）にインタビューなどを依頼する場合には、社会人としてのビジネスマナーを守り、決して先方に迷惑をかけたりすることのないように充分配慮してください。

⑥本授業に係る疑問点や質問があれば、manaba上のスレッドにアップしてください。